和白青松園のみなさんとの　アフガニスタン学習会

2008年３月４日

ガンダーラ地方（カブール、ジャララバード、ペシャワール）を東西に横切るカブール川はパキスタン北部でインダス川に合流。

ガンダーラで育まれた大乗仏教は中国・コリア・日本へと伝わった。この地でギリシャ文化と仏教文化が融合しガンダーラ美術を後世に遺した。

協力　社団法人シャンティ国際ボランティア会

アフガニスタンと日本の比較

	アフガニスタン	日本	比較
面積	65万平方キロ	38万平方キロ	約1．7倍
緯度	北緯33度 （ｼﾞｬﾗﾗﾊﾞｰﾄﾞ）	北緯35度？ （明木）	ほぼ同じ
時差	午前7時半	午前12時	4時間半
最高・最低気温	50度・0度 （ｼﾞｬﾗﾗﾊﾞｰﾄﾞ）	37度・0度？ （福岡）	6月から8月が酷暑
雨量	100～300ml	2000ml~3000ml？	約10分の1
国境	6カ国と国境を有する内陸国 （港のない国）	陸続きの国境がない島国	ｱｼﾞｱの内陸国で最も多くの国と国境を有する国

アフガニスタンの地図とカイバル峠

アフガニスタン（ジャララバード）とパキスタン（ペシャワール）を結ぶカイバル峠。

定期バスが今月開通した。

子どもたちを襲う厳しい環境

- 「生きる」ことの難しさ
  （４人に１人は5歳までに命を落とす。アジアで最悪。世界4位）
- 出生時の平均余命は43歳。
- 大人たちの識字率は36％。
- 学校も先生も教科書もない・・・
  あるのは武器・弾薬・地雷・麻薬
- 経済基盤が全くない。
  直視できない幼子の過酷労働。

「この子どもたちが子どもに戻れる時間（とき）を提供したい・・・。

ごみ広いをする子ども

水汲み

鉄くず集めをするこども

学校建設

＊2/3の学校で校舎を必要としています。
＊校舎のない学校では青空教室で学習しますが、夏は50度以上の暑さ、冬は零下の寒さ、厳しい環境です。
＊アフガニスタンの全体の識字率は40％未満です。
＊成人女性の識字率は3％以下とも言われています。
＊女子の就学率は男子の1/3程度です。

手作りの職員室。雨が降ると雨漏りが・・・。

テントの中は外より暑くなることも。

校舎ができるまで

時には車で川を越えていく。(上)

地元長老が調印します。

学校の基礎は手掘りで行っています。(上)

基礎の後は、レンガを積み立てていく。(下)

SVAのスタッフが地元の労働者に直接賃金を払います。

セメント加工をしていきます。

SVA建設新校舎

もうすぐ完成

教室(上）

校舎ができてバンザイ！バティコット郡チャルディヒ村の子どもたち（左）

図書館活動

この子どもたちの笑顔を守るためにできることは何か・・・。

【課題】

・全国の学校教員約1万人のうち、資格を持つものや教員養成の教育を受けた教員は15％以下といわれる。
・地方では、小学校低学年程度しか終了していない教員が小学校高学年を教えているケースもある。
・教材が全くない。
・教え方がわからないため、暗記法によっての授業。
・子どもたちに生きる喜び・希望そして平和の大切さを教えることが大切。
・長年の戦争で教育をうけられなかったため、家庭で生活知識を教えられない。(保険衛生など)
・貧困のため働いている子どもが多い。

図書館ワークショップ

- ナンガハール州内の小学校の教員を対象にお話読み聞かせや図書館活動を通して、子どもたちが豊かに学ぶことの意義を伝えます。
- ワークショップの後には、各学校に絵本を贈呈します。

ワークショップの後に絵本を図書箱に入れて贈呈（下）

ワークショップで折り紙の実践。ラル・プール郡チャオキノール小学校教員(下）

市内学校でのワークショップの様子(上）

移動図書箱活動

- 月に1・2回学校を周りSVAスタッフがお話読み聞かせや図書館活動を行います。
- 図書箱には絵本や本を詰めて次の活動まで学校へと貸し出します。

教材作りに励むスタッフ
（左）

紙芝居での読み聞かせ。子どもたちにとって紙芝居をみるのは初めて。

「これなあに？」という教材を使って、子どもたちに楽しく参加してもらう。(下）

SVAでもアフガニスタンのお話を使った紙芝居の出版を予定している。（下）

出版活動

- アフガニスタン国内で口承で伝えられている80話のを収集し、民話絵本として出版。
- 絵や文章の構成は、ボランテイアで参加してくださる教員養成大学の教員などが参加。
- 子どもたちの声を反映しながらの挑戦。

アフガニスタンで伝わるお話を元にした絵本 （左）

コミュニティ文庫で絵本を読む子どもたち(下）

出版委員会に参加する女性スタッフ(左上）

絵について文化や宗教の議論が行われる。ナンガハール州教員養成大学副学長ワヒド氏

（左）

子ども図書館

- 毎日平均100名ほどの子どもたちが好きな時間に図書館にやってきます。
- ほとんどの子どもが難民生活・戦争を体験している子どもたちです。
- 中には、戦争や病気で親を亡くした子ども、日々の食事もまともに食べられない子どももいます。
- 家では、みずくみや子守など仕事はいっぱい。でも急いで仕事を終えて図書館にやってきます。
- 戦争しかしらない子どもたちに平和を伝えたい・・・、希望をもってほしい・・、私たちにできることを考えさせられます。

私もできました。折り紙活動で真剣そのもの。（右）

図書館で子どもたちに紙芝居をよむナシマスタッフ。(下）

ソーニャちゃんはおはなしを読んであげるのが大好き。(右）

子ども図書館担当のナシマです。
昨年の夏は日本でお世話になりました。
アフガンの子どもたちに会いに来て下さい。

ワヒドです。

約30年に渡る戦争で

私たちは多くのものを失くしました。

私たちの子どもたちは戦争しか知りません。

戦争はもういやです。

この平和を大切にしたいのです。

テロリストと呼ばれたくはないのです。

今一度、私たちにチャンスをください。

自分たち自身で平和な国を維持していくために、

あなたたちの力が必要なのです

私たちには何もありません。

しかし、ひとつだけ約束できるのは

あなたたちの支援を決して無駄にはしません。

近い将来、福岡に行きます
。
お世話になります。
よろしくお願いいたします。

SVAアフガニスタン事務所　アフガン人職員を代表して　　ワヒド・ザマニ

私は、アフガンの復興に日本人のひとりとして取り組みたいのです。世界で最も困難な状況にある国の人々が一番に慕う国が「道の国・日本」であってほしい。苦しい環境に生きる「人間」から学ぶことは限りなく多い。伊藤丈二

アフガニスタンで待ってまーす。
さようなら
SVA子ども文庫の子どもたち